

■ 第14回若手研究者奨励賞

「第14回若手研究者奨励賞」の選考に際して

汲田伸一郎

日本医科大学 放射線医学

第24回日本心臓核医学会学術大会が愛媛大学の望月輝一大会長のもと、平成26年7月18日～19日に愛媛県民文化会館（ひめぎんホール）にて開催されました。

日本心臓核医学会では、心臓核医学に関する独創的な研究の奨励と若手研究者の育成を目的として、若手研究者奨励賞を設けてきました。これまでは若手執筆者による優れた論文の表彰でしたが、本大会からは、その選考方式を大きく改めました。学術集会の一般演題のうち若手研究者奨励賞に応募された抄録による一次審査を行い、数名の最終候補者を選出します。最終候補者には、学術集会中の若手研究者奨励賞セッションで発表していただき、審査により最優秀賞1名、優秀賞数名を決定するという方式です。なお応募資格は、応募時に満40歳未満であり、筆頭演者かつ発表者であり、その研究の着想および遂行に重要な役割を果たしたものであるということです。

今回は、一次審査を大会主催校である愛媛大学にお願いし3名の最終候補者を選出、19日に行われた発

表にて10名の選考委員により二次審査（最終審査）を行いました。厳正なる審査の結果、最優秀賞は「320列MDCT心筋血流イメージによる局所心筋血流量解析： ^{15}O 標識水PETとの比較」を発表した北海道大学放射線診断科の菊池穂香先生、優秀賞は「活動性心サルコイドーシスにおけるFDG-PET、MRI、BMIPP/TLシンチ所見の関連性」を発表した東京女子医大循環器内科の片岡翔平先生および「虚血性心疾患患者に対する治療選択と心血管イベントリスク」を発表した日本大学循環器内科の堀祐輔先生に決定いたしました。いずれも非常に優れた発表内容であり、独創性・将来性に富むものでした。今後もさらに研鑽を積み、心臓核医学の研究を継続していただきたいと思います。

このように新しい選考方式は、応募もしやすく、厳正な審査を行えるというメリットがあります。若手研究者奨励賞選考が、次代を担う若手心臓核医学研究者の発掘・育成に際し寄与することを切に願います。